

おわかれのことば

レロばあちゃんこと 佐久間 紀子様へ

ふれあいサポーター館アトリエも築四十年になりました。佐久間様のお隣の、元相馬藩のご家老岡田様の跡地を清登様に紹介していただき、古民家の二百年物の材料で建設されました。こんな資材はもう手に入らないからと、お二人で夜警をかってくださり、アトリエを守っていただきました。アトリエの建物だけでなく、これまで、清登様、紀子様ご夫妻には長きにわたり、当アトリエの活動を支えていただきました。合宿で使った手作りの布団、デイサービスでは、毛糸で手編みした座布団、足置きなどの紀子様のたくさんの作品を今でも、使わせていただいております。一同、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

また、私たちの三人の子ども達、その子ども達の孫達まで面倒見ていただき、子育て・孫育てもサポートしていただき、公私共々たいへんお世話になりました。おかげさまで、アトリエに通った子ども達は、何年たってもレロじいちゃん・ばあちゃんとの懐かしい思い出を忘れず今でも話してくれますし、我が家の子ども達・孫達には、手をかけ目をかけ面倒見ていただいた御恩は勿論ですが、レロじいちゃん・レロばあちゃんの教えを心に刻み、みんな素直な子に成長できました事は、本当に有難く感謝にたえません。

レロじいちゃん・レロばあちゃんとは・・・乳飲み子の孫をあやすのに、ノドと舌で、レロレロレロと鳴らしあやしてくれたのです。それからは、佐久間清人様・紀子様は知らないけれど、レロじいちゃん・レロばあちゃんの名前は子ども達に知れ渡り、ずーっとレロじいちゃん・レロばあちゃんの愛称で親しまれました。そして、今でも、あのレロレロレロ・・・が聞こえてきます。

ごめんなさい、幹恵ちゃん、富佐恵ちゃん、理恵ちゃん。相馬に居ないのをいいことに、隣の他人である私たちがすっかり御世話になりました。心苦しくもありましたが、隣近所のお付き合いさえも希薄になっていく昨今、隣の他人をこんなに心にかけて、面倒見ていただき、私たちはとても幸せでした。仕事が忙しいと、孫たちばかりでなく、倉本までが立ち寄り、レロばあちゃんの作った美味しい料理で晩酌までさせていただき、おかげで私は、安心して心置きなく仕事に励むことができました。育児や家事ばかりでなく、世間の常識、夫の操縦法も聞くことができ、親には言えないことや身内では話すことができない事等も、レロばあちゃんの話聞いて、しつかりと心に刻む事ができました。

レロじいちゃんが誰にもお別れを言わず、遠くに旅立ってから八ヶ月。いつもレロじいちゃんを支えていたレロばあちゃんは、心配だったでしょうね。もつともつと長生きしてもらいたかったです。騒々しい私たちがいないところでお二人でゆっくりお休みください。いつになっても頼りきりだったレロばあちゃんが近くにいないことはとても寂しくて不安ですが、一昨日は手ほどきを受けた三二回目の糞づくり。満開の花が咲きました。明日は、絵画教室の味噌つきをします。

とても穏やかなお顔で休んでいるレロばあちゃんに手合わせ、元気だったお姿を忍びながら誓いました。ずーっとレロばあちゃんの味を忘れないようこれからも毎年続けていきます。これからもまた、みんなを見守っていてください。合掌

令和四年十一月十二日

相馬絵画研究所

倉本 まり子 ・ 倉本家一同

教室生・リーダー・スタッフ一同